

7

[東北大]

$s$  を正の実数とする。鋭角三角形  $ABC$  において、辺  $AB$  を  $s:1$  に内分する点を  $D$  とし、辺  $BC$  を  $s:3$  に内分する点を  $E$  とする。線分  $CD$  と線分  $AE$  の交点を  $F$  とする。

以下の問いに答えよ。

- (1)  $\overrightarrow{AF} = \alpha \overrightarrow{AB} + \beta \overrightarrow{AC}$  とするとき、 $\alpha$  と  $\beta$  を求めよ。
- (2)  $F$  から辺  $AC$  に下ろした垂線を  $FG$  とする。 $FG$  の長さが最大となるときの  $s$  を求めよ。

8

[千葉大]

$n$  を 4 以上の整数とする。座標平面上で正  $n$  角形  $A_1A_2\cdots A_n$  は点  $O$  を中心とする半径 1 の円に内接している。 $\vec{a} = \overrightarrow{OA_1}$ ,  $\vec{b} = \overrightarrow{OA_2}$ ,  $\vec{c} = \overrightarrow{OA_3}$ ,  $\vec{d} = \overrightarrow{OA_4}$  とし,  
 $k = 2\cos\frac{2\pi}{n}$  とおく。そして、線分  $A_1A_3$  と線分  $A_2A_4$  との交点  $P$  は線分  $A_1A_3$  を  
 $t:1-t$  に内分するとする。

- (1)  $\vec{a}$  および  $\vec{d}$  を,  $\vec{b}$ ,  $\vec{c}$ ,  $k$  を用いて表せ。
- (2)  $t$  を  $k$  を用いて表し,  $\frac{1}{2} \leq t < \frac{3}{4}$  を示せ。
- (3) 不等式  $\frac{\triangle PA_2A_3}{\triangle A_1A_2A_4} > \frac{1}{12}$  を示せ。

9

[東京大・文]

1 辺の長さが 1 の正六角形  $ABCDEF$  が与えられている。点  $P$  が辺  $AB$  上を、点  $Q$  が辺  $CD$  上をそれぞれ独立に動くとき、線分  $PQ$  を  $2:1$  に内分する点  $R$  が通りうる範囲の面積を求めよ。

**10**

[京都大・文]

座標空間において原点  $O$  と点  $A(0, -1, 1)$  を通る直線を  $l$  とし、点  $B(0, 2, 1)$  と点  $C(-2, 2, -3)$  を通る直線を  $m$  とする。 $l$  上の 2 点  $P, Q$  と、 $m$  上の点  $R$  を  $\triangle PQR$  が正三角形となるようにとる。このとき、 $\triangle PQR$  の面積が最小となるような  $P, Q, R$  の座標を求めよ。

11

[東京医歯大]

$xyz$  空間において、点  $O(0, 0, 0)$  と点  $A(0, 0, 1)$  を結ぶ線分  $OA$  を直径にもつ球面を  $\sigma$  とする。このとき以下の各問いに答えよ。

- (1) 球面  $\sigma$  の方程式を求めよ。
- (2)  $xy$  平面上にあって  $O$  と異なる点  $P$  に対して、線分  $AP$  と球面  $\sigma$  との交点を  $Q$  とするとき、 $\overrightarrow{OQ} \perp \overrightarrow{AP}$  を示せ。
- (3) 点  $S(p, q, r)$  を、 $\overrightarrow{OS} \cdot \overrightarrow{AS} = -|\overrightarrow{OS}|^2$  を満たす、 $xy$  平面上にない定点とする。 $\sigma$  上の点  $Q$  が  $\overrightarrow{OS} \perp \overrightarrow{SQ}$  を満たしながら動くとき、直線  $AQ$  と  $xy$  平面との交点  $P$  はどのような図形を描くか。 $p, q, r$  を用いて答えよ。

7

[東北大]

(1)  $\triangle ABE$  と直線  $CD$  にメネラウスの定理を適用して、

$$\frac{AD}{DB} \cdot \frac{BC}{CE} \cdot \frac{EF}{FA} = 1, \quad \frac{FA}{EF} = \frac{AD}{DB} \cdot \frac{BC}{CE}$$

条件より、 $AD:DB = s:1$ 、 $BE:EC = s:3$  なので、

$$\frac{FA}{EF} = \frac{s}{1} \cdot \frac{s+3}{3} = \frac{s(s+3)}{3}$$

すると、 $\overrightarrow{AF} = \frac{s(s+3)}{s(s+3)+3} \overrightarrow{AE}$  となり、

$$\overrightarrow{AF} = \frac{s(s+3)}{s(s+3)+3} \cdot \frac{3\overrightarrow{AB} + s\overrightarrow{AC}}{s+3} = \frac{s}{s^2+3s+3} (3\overrightarrow{AB} + s\overrightarrow{AC})$$

ここで、条件より  $\overrightarrow{AF} = \alpha\overrightarrow{AB} + \beta\overrightarrow{AC}$  で、 $\overrightarrow{AB}$  と  $\overrightarrow{AC}$  は 1 次独立なので、

$$\alpha = \frac{3s}{s^2+3s+3}, \quad \beta = \frac{s^2}{s^2+3s+3}$$

(2)  $\overrightarrow{AH} = \alpha\overrightarrow{AB}$ 、 $\overrightarrow{AI} = \beta\overrightarrow{AC}$  とおくと、 $\overrightarrow{AF} = \overrightarrow{AH} + \overrightarrow{AI}$  から、

$$\triangle AFC = \alpha \cdot \triangle ABC \cdots \cdots \textcircled{1}$$

さて、 $F$  から辺  $AC$  に垂線  $FG$  を下ろすと、

$$\triangle AFC = \frac{1}{2} AC \cdot FG \cdots \cdots \textcircled{2}$$

$$\textcircled{1}\textcircled{2} \text{より、} \frac{1}{2} AC \cdot FG = \alpha \cdot \triangle ABC, \quad FG = \frac{2\alpha}{AC} \triangle ABC$$

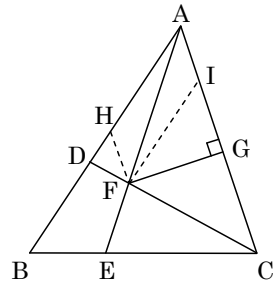
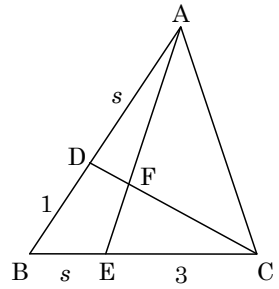
これより、 $FG$  の長さが最大となるのは  $\alpha$  が最大となるときで、(1)の結果を  $\alpha = \frac{3}{s+3+\frac{3}{s}}$  と変形すると、相加平均と相乗平均の関係より、

$$s + \frac{3}{s} \geq 2\sqrt{s \cdot \frac{3}{s}} = 2\sqrt{3}$$

ただし、等号は  $s = \frac{3}{s}$  すなわち  $s = \sqrt{3}$  のとき成立し、これより、

$$\alpha = \frac{3}{s+3+\frac{3}{s}} \leq \frac{3}{2\sqrt{3}+3} = 2\sqrt{3}-3$$

よって、 $FG$  の長さが最大となるときの  $s$  の値は  $s = \sqrt{3}$  である。



**[解説]**

平面ベクトルの三角形への応用問題で、頻出の構図です。解答例では図形的に処理をしましたが、(1)では分点ベクトル、(2)では内積を用いても、記述量はやや増加する程度です。

8

[千葉大]

- (1) 点  $O$  を中心とする半径  $1$  の円に内接する正  $n$  角形  $A_1A_2 \cdots A_n$  に対し、直線  $OA_2$  は線分  $A_1A_3$  の垂直二等分線であり、 $OA_2$  と  $A_1A_3$  との交点を  $B_2$  とおくと、

$$OB_2 = \cos \frac{2\pi}{n} = \frac{k}{2}$$

すると、 $\frac{\vec{a} + \vec{c}}{2} = \frac{k}{2} \vec{b}$  より、 $\vec{a} = k\vec{b} - \vec{c}$  である。

同様に、直線  $OA_3$  は線分  $A_2A_4$  の垂直二等分線なので、 $\vec{d} = k\vec{c} - \vec{b}$  である。

なお、 $n=4$  のときは  $k=0$  であるが、このときも成立している。

- (2) まず、 $P$  は線分  $A_1A_3$  を  $t:1-t$  に内分するので、

$$\begin{aligned} \vec{OP} &= (1-t)\vec{a} + t\vec{c} = (1-t)(k\vec{b} - \vec{c}) + t\vec{c} \\ &= (1-t)k\vec{b} + (2t-1)\vec{c} \cdots \cdots \text{①} \end{aligned}$$

また、対称性より、 $P$  は線分  $A_4A_2$  を  $t:1-t$  に内分するので、同様にすると、

$$\begin{aligned} \vec{OP} &= (1-t)\vec{d} + t\vec{b} = (1-t)(k\vec{c} - \vec{b}) + t\vec{b} \\ &= (2t-1)\vec{b} + (1-t)k\vec{c} \cdots \cdots \text{②} \end{aligned}$$

①②より、 $\vec{b}$  と  $\vec{c}$  は 1 次独立なので、 $(1-t)k = 2t-1$  となり、

$$(k+2)t = k+1, \quad t = \frac{k+1}{k+2}$$

ここで、 $n \geq 4$  より  $0 < \frac{2\pi}{n} \leq \frac{\pi}{2}$  となり、これより  $0 \leq k < 2$  なので、

$$t - \frac{1}{2} = \frac{k+1}{k+2} - \frac{1}{2} = \frac{k}{2(k+2)} \geq 0, \quad t - \frac{3}{4} = \frac{k+1}{k+2} - \frac{3}{4} = \frac{k-2}{4(k+2)} < 0$$

よって、 $\frac{1}{2} \leq t < \frac{3}{4}$  である。

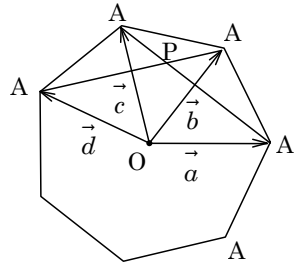
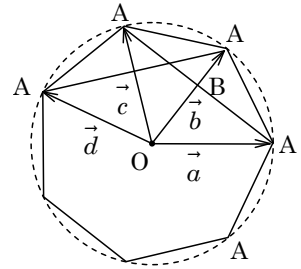
- (3) 条件から、 $A_1P : PA_3 = t : 1-t$  より、 $\triangle PA_2A_3 = \frac{1-t}{t} \triangle PA_1A_2 \cdots \cdots \text{③}$

また、 $A_2P : PA_4 = 1-t : t$  より、 $\triangle PA_1A_2 = (1-t) \triangle A_1A_2A_4 \cdots \cdots \text{④}$

③④より、 $\triangle PA_2A_3 = \frac{(1-t)^2}{t} \triangle A_1A_2A_4$  となり、(2)から、

$$\frac{(1-t)^2}{t} - \frac{1}{12} = \frac{12t^2 - 25t + 12}{12t} = \frac{(3t-4)(4t-3)}{12t} > 0$$

よって、 $\frac{\triangle PA_2A_3}{\triangle A_1A_2A_4} = \frac{(1-t)^2}{t} > \frac{1}{12}$  である。



[解説]

ベクトルの図形への応用です。(2),(3)は分数関数の値域を調べる方法もあります。

9

[東京大・文]

1 辺の長さが 1 の正六角形 ABCDEF の辺 AB 上を点 P, 辺 CD 上を点 Q が独立に動くとき,  $0 \leq p \leq 1$ ,  $0 \leq q \leq 1$  として,  $AP:PB = p:1-p$ ,  $DQ:QC = q:1-q$  とおく。

さて, AD の中点を O とし,  $PR:RQ = 2:1$  から,

$$\begin{aligned}\overline{OR} &= \frac{1}{3}\overline{OP} + \frac{2}{3}\overline{OQ} \\ &= \frac{1}{3}(\overline{OA} + p\overline{AB}) + \frac{2}{3}(\overline{OD} + q\overline{DC}) \\ &= \frac{1}{3}\overline{OA} + \frac{2}{3}\overline{OD} + \frac{1}{3}p\overline{AB} + \frac{2}{3}q\overline{DC}\end{aligned}$$

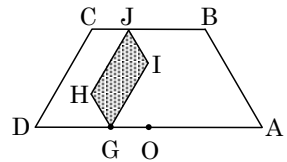
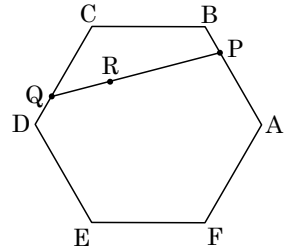
ここで, AD を 2:1 に内分する点を G とおくと,  $\overline{OG} = \frac{1}{3}\overline{OA} + \frac{2}{3}\overline{OD}$  となり,

$$\overline{OR} = \overline{OG} + \frac{1}{3}p\overline{AB} + \frac{2}{3}q\overline{DC}, \quad \overline{GR} = \frac{1}{3}p\overline{AB} + \frac{2}{3}q\overline{DC}$$

そこで,  $0 \leq \frac{1}{3}p \leq \frac{1}{3}$ ,  $0 \leq \frac{2}{3}q \leq \frac{2}{3}$  から,  $\overline{GH} = \frac{1}{3}\overline{AB}$ ,  $\overline{GI} = \frac{2}{3}\overline{DC}$  とおくと, 点 R は右図の平行四辺形 GIJH の内部または辺上を動く。

$|\overline{GH}| = \frac{1}{3}$ ,  $|\overline{GI}| = \frac{2}{3}$ ,  $\angle HGI = \frac{\pi}{3}$  より, その面積は,

$$2\left(\frac{1}{2} \cdot \frac{1}{3} \cdot \frac{2}{3} \sin \frac{\pi}{3}\right) = \frac{\sqrt{3}}{9}$$



### [解説]

平面ベクトルと領域の問題です。成分表示を利用するかどうかで, 2 つの解法があります。この問題ではどちらでも可能ですが, 前者は後者に比べ, 記述量がかかり増えます。



10

[京都大・文]

原点  $O$  と点  $A(0, -1, 1)$  を通る直線  $l$  上に 2 点  $P, Q$ , 点  $B(0, 2, 1)$  と点  $C(-2, 2, -3)$  を通る直線  $m$  上に点  $R$  がある。ここで、線分  $PQ$  の中点を  $M$  とするとき、 $\triangle PQR$  が正三角形より、その面積は、

$$\triangle PQR = \frac{1}{2} MR \cdot \frac{2}{\sqrt{3}} MR = \frac{1}{\sqrt{3}} MR^2$$

すると、 $\triangle PQR$  の面積が最小となるのは、 $MR$  が最小の場合である。すなわち、 $MR \perp l$  かつ  $MR \perp m$  である。

そこで、 $\overrightarrow{OA} = (0, -1, 1)$ 、 $\overrightarrow{BC} = (-2, 0, -4) = -2(1, 0, 2)$  なので、 $t, s$  を実数とすると、直線  $l, m$  は、

$$l: (x, y, z) = t(0, -1, 1), \quad m: (x, y, z) = (0, 2, 1) + s(1, 0, 2)$$

これより、 $M(0, -t, t)$ 、 $R(s, 2, 1+2s)$  とおき、 $\overrightarrow{MR} = (s, 2+t, 1+2s-t)$

さて、 $MR \perp l$  から  $\overrightarrow{MR} \cdot \overrightarrow{OA} = 0$  となり、

$$-2-t+1+2s-t=0, \quad -2t+2s=1 \cdots \cdots \textcircled{1}$$

また、 $MR \perp m$  から  $\overrightarrow{MR} \cdot \overrightarrow{BC} = 0$  となり、

$$s+2(1+2s-t)=0, \quad -2t+5s=-2 \cdots \cdots \textcircled{2}$$

①②より、 $s=-1, t=-\frac{3}{2}$  となり、 $M(0, \frac{3}{2}, -\frac{3}{2})$ 、 $R(-1, 2, -1)$  である。

これより、 $\overrightarrow{MR} = (-1, \frac{1}{2}, \frac{1}{2})$  から、 $|\overrightarrow{MR}| = \sqrt{1+\frac{1}{4}+\frac{1}{4}} = \frac{\sqrt{6}}{2}$

すると、 $PQ = \frac{2}{\sqrt{3}} \cdot \frac{\sqrt{6}}{2} = \sqrt{2}$  となり、 $|\overrightarrow{OA}| = \sqrt{1+1} = \sqrt{2}$  から、点  $P, Q$  の座標は、

$$\begin{aligned} \overrightarrow{OM} \pm \frac{1}{2} PQ \cdot \frac{1}{\sqrt{2}} \overrightarrow{OA} &= \left(0, \frac{3}{2}, -\frac{3}{2}\right) \pm \frac{\sqrt{2}}{2} \cdot \frac{1}{\sqrt{2}} (0, -1, 1) \\ &= \left(0, \frac{3}{2}, -\frac{3}{2}\right) \pm \left(0, -\frac{1}{2}, \frac{1}{2}\right) \end{aligned}$$

よって、 $P(0, 1, -1)$ 、 $Q(0, 2, -2)$ 、または  $P(0, 2, -2)$ 、 $Q(0, 1, -1)$  である。

### [解説]

高校数学に「代数・幾何」という科目があったころの頻出題の 1 つです。ポイントは、正三角形の中線がねじれの位置にある  $l$  と  $m$  の共通垂線ということです。なお、最後の点  $P, Q$  の座標を求める計算は、単位ベクトルを利用しています。

11

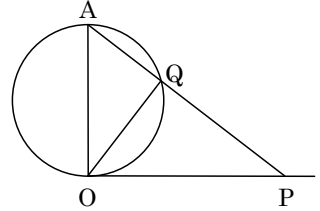
[東京医歯大]

(1)  $O(0, 0, 0)$ ,  $A(0, 0, 1)$ に対し, 線分  $OA$  が直径の球面  $\sigma$  は, 中心  $(0, 0, \frac{1}{2})$ ,

半径  $\frac{1}{2}$  より, その方程式は,

$$x^2 + y^2 + \left(z - \frac{1}{2}\right)^2 = \frac{1}{4}$$

(2)  $xy$  平面上の点  $P(P \neq O)$  に対して, 3点  $O, A, P$  を含む平面を考えると, この平面による球面  $\sigma$  の切り口は  $OA$  が直径の円となるので,  $\overrightarrow{OQ} \perp \overrightarrow{AP}$  である。



(3)  $P(x, y, 0)$ とおき,  $AQ : QP = t : 1-t$  ( $0 < t < 1$ )とすると,

$$\begin{aligned} \overrightarrow{OQ} &= (1-t)\overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{OP} = (1-t)(0, 0, 1) + t(x, y, 0) \\ &= (tx, ty, 1-t) \cdots \cdots \textcircled{1} \end{aligned}$$

(2)より,  $\overrightarrow{OQ} \perp \overrightarrow{AP}$ なので,  $\overrightarrow{AP} = (x, y, -1)$ から,

$$tx^2 + ty^2 - (1-t) = 0, \quad t = \frac{1}{x^2 + y^2 + 1} \cdots \cdots \textcircled{2}$$

さて,  $S(p, q, r)$  ( $r \neq 0$ )から  $\overrightarrow{AS} = (p, q, r-1)$ となり,  $\overrightarrow{OS} \cdot \overrightarrow{AS} = -|\overrightarrow{OS}|^2$ より,

$$p^2 + q^2 + r(r-1) = -(p^2 + q^2 + r^2), \quad 2(p^2 + q^2 + r^2) = r \cdots \cdots \textcircled{3}$$

さらに,  $\overrightarrow{OS} \perp \overrightarrow{SQ}$ なので, ①から  $\overrightarrow{SQ} = (tx-p, ty-q, 1-t-r)$ となり,

$$\begin{aligned} p(tx-p) + q(ty-q) + r(1-t-r) &= 0 \\ ptx + qty + r(1-t) &= p^2 + q^2 + r^2 \cdots \cdots \textcircled{4} \end{aligned}$$

③④より,  $2ptx + 2qty + 2r(1-t) = r, \quad 2ptx + 2qty - 2tr + r = 0$

②を代入すると,  $\frac{2px}{x^2 + y^2 + 1} + \frac{2qy}{x^2 + y^2 + 1} - \frac{2r}{x^2 + y^2 + 1} + r = 0$ となり,

$$2px + 2qy - 2r + r(x^2 + y^2 + 1) = 0, \quad x^2 + y^2 - 1 + \frac{2p}{r}x + \frac{2q}{r}y = 0$$

$$\left(x + \frac{p}{r}\right)^2 + \left(y + \frac{q}{r}\right)^2 = \frac{p^2 + q^2 + r^2}{r^2}$$

ここで, ③から  $r > 0$  となり,  $\left(x + \frac{p}{r}\right)^2 + \left(y + \frac{q}{r}\right)^2 = \frac{1}{2r}$

したがって, 点  $P$  は  $xy$  平面上で, 中心  $\left(-\frac{p}{r}, -\frac{q}{r}, 0\right)$ , 半径  $\frac{1}{\sqrt{2r}}$  の円を描く。

[解説]

空間ベクトルの図形への応用問題です。上の解答例は, 成分計算を主体として記述しています。